
再会

タケトモン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
再会

【Nコード】
N9257G

【作者名】
タケトモン

【あらすじ】
日本政府は韓半島社会主義共和国通称東朝鮮に宣戦布告された。そんなことは露知らず。東京の練馬区に住む、ごく普通の中学生ユウトは、毎日を楽しく過ごしていた。しかし戦争が始まると東朝鮮から亡命してきた彼の友人キム・ヨンファがイジメられるようになる。激化するイジメ。激化する戦争。とうとうユウト達の住む町も空襲をうける。ヨンファを助きたいユウト達。しかし何もできずただ苦悩する。そんな時ヨンファが政府に連れて行かれることが判明する。ユウト達はヨンファを助けられるのか？ヨンファとは二度と

会えなくなるのか？戦争はどうなるのか？

第1話：スクランブル（前書き）

以前学校の宿題で書いたものを加筆修正したものです。

韓国・北朝鮮の方や左翼系の方には不快な部分もあるかも知れませんが、読む場合は自己責任でお願いします。

ご意見・ご感想・ご批判待っています。

第1話…スクランブル

日本海上空

二機エフジューラージェイのF-15Jが飛行していた。

国籍不明機による領空侵犯の恐れがあるためスクランブル発進したのだ。

小松基地から発進したF-15Jの二機、イーグルワシ1とイーグルツイ2は編隊を崩さずに飛行していた。

入間基地の防空管制隊から通信が届く。

『こちら入間基地管制塔。イーグル1応答せよ。』

「こちらイーグル1。通信状態良好。現在飛行状態に問題なし。」

『了解。イーグル2応答せよ。』

『こちらイーグル2。イーグル1と同様、飛行状態に問題なし。』

『了解。現在国籍不明機は防空識別圏を突破し、領空圏内に侵入しようとしている。そちらのレーダーにも映るはずだ。』

多くの国において領海は領土から12海里に設定されており、届かない航空機が領海上空の領空を侵犯してから領土上空に到達するまで、旅客機でも1分強、超音速軍用機であれば数十秒あれば可能なのだ。

つまり領空侵犯を確認してから対応するのでは手遅れになる危険がある。

従って領空の外側の空域に防空識別圏を設定し、届けない航空機が防空識別圏に進入したときスクランブル発進するようにしているのだ。

「確認した。この天候だと目視確認できる距離だ。」

たしかにイーグル1の言うとおり今日は雲ひとつない夜空だった。星がきらきら光り、とても綺麗だ。

こんな状況でなければ、もっとこの星空を眺めていたかった。しかし、そんな悠長なことは言ってられない。

今は国籍不明機を探すのが先決だった。

『イーグル1。あれじゃないか？十時の方向だ。』

イーグル1はイーグル2がいった方向を注視する。

あれだ！確かにイーグル2の言うとおり十時の方向にジェット機のエンジンの明かりのようなものが見えた。

「管制塔。こちらイーグル1。目標と思われる。航空機を発見。接近する。」

『了解。注意されたし。』

ゴオオオオオオオオオ

通信をいったん終わらせると、イーグル1とイーグル2は機体を傾け、明かりの方向へ向かった。

その時、イーグル2のパイロットが話しかけてきた。

『また俺が先に見つけたな。今度おこれよ。』

「分かってるよ。」

そして二機は明かりへと近づいていった。

近づくとも明かりの正体が分かった。

なんと国籍不明機は一機だけではなく3機のジェット機だった。しかもただのジェット機ではない。

戦闘機だ。

おそらく単座型。

ご丁寧に両翼にはミサイルをいくつもしょっている。

「おい！レーダーには機影は一機だけだったじゃないか！どういうことだ？」

『おそらく目標が固まって飛行していて分からなかったんだろう。ほらトップガンであったじゃないか。』

「ちっ！映画じゃねえんだぞ！」

イーグル1は悪態をつくど、国際緊急周波数の121.5Hzひやくにじゅういつてんごヘルツにあわせ英語で喋り始めた。

「We are the Japan Air Self-Defense Force. (我々は日本国航空自衛隊である。) This airspace is Japanese territory. (この空域は日本の領空である。) Leave it immediately. (速やかに退去せよ。) When you do not leave it, I attack you. (退去しない場合は攻撃を行う。)

） Repeats itself. （繰り返す。） You invade a Japanese airspace. （あなた方は日本の領空を侵犯している。） Leave it immediately. （速やかに退去せよ。）」

反応がなかった。

パイロットは次にロシア語で同じことを話す。

しかし反応がなかった。

方向転換する気配もない。

中国語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、韓国語でも試みたがやはり反応がなかった。

「こちらイーグル1。目標は方向転換しない。威嚇射撃の許可を求む。」

『こちら管制塔、了解。威嚇射撃を許可する。』

「イーグル2。お前は右の一機をやってくれ。俺は真ん中のやつをやる。」

『了解した。』

イーグル1とイーグル2は機体を国籍不明の三機の後ろに付けると、にじゅうミリ20mm機関砲の照準を定めた。

「いつもだったらこれですぐ逃げ帰るが・・・。」

イーグル1がバルカンの引き金を引こうとしたそのときだった。

ギューイイイイイイイン

狙われていなかったもう一機の戦闘機が突如急旋回。
イーグル1の後ろに付いたのである。

「なんだ！」

突然の行動に驚いたもののすぐに冷静さを取り戻し、もう一機の戦闘機を説得しようと通信回線を開こうとした。

ピピピピピピ

が、機内のコンピューターが激しく警報を鳴らした。

「ロックオンされてる！？ちっ！」

ゴオオ ギュイイイイイイイン

イーグル1は機体を傾け急旋回した。
そして、イーグル1がロックオンしていた戦闘機もイーグル1の後を追いついて、後ろに付いた。

『イーグル1！』

「ちくしょう！管制塔！こちらイーグル1！国籍不明機にロックオンされている！」

『落ち着け！あまり目標を刺激するな。今は命を守ることだけを優先しろ！』

「了解！くっ……。」

イーグル1は後ろを見る。

相変わらず二機の戦闘機がピッタリと付いてきていた。
そして警報機も鳴りっぱなしだ。

「ちくしょう！」

イーグル1は機体を操作し、二機を振り切ろうとする。
が、戦闘機はピッタリと後ろに付いたままだった。

と、そのときだった。

バシユウウー

戦闘機の翼からミサイルが発射された。

ミサイルはイーグル1に向かって一直線に進んでくる。

そしてあと数秒でイーグル1に命中しようとしたそのときだった。

『危ない！』

ミサイルの射線上にイーグル2が突っ込んできたのだ。

そして見事、と言って良いのかどうか。

ガアアアアアアン！

ミサイルはイーグル2の左翼とエンジンを跡形もなく吹き飛ばした。

『イーグル1。い…ザー…小島。俺…ザー…う駄目だ。今まで…ザ
ー…楽しかった…ザー…ぜ。』

ドガァァァァァァンンン

その通信を残し、イーグル2のF-15Jは爆発四散した。

「イーグル2！イーグル2！！大塚ああ！！！」

イーグル2の最後の通信。所々乱れているが、何が言いたいかは分かった。

それは死を覚悟した通信だった。

今まで何回も一緒に飛んできた相棒の言葉に、涙が出そうになるイーグル1のパイロット、小島。

F-15Jの破片が冷たい日本海へ落ちていく。

小島は機体を急旋回させ、大塚、イーグル2を撃墜した戦闘機の後ろに付く。

そしていつでも20m機関砲きかんぱうを撃てるようにすると、通信回線を開いた。

「こちらイーグル1。イーグル2が撃墜された……。」

『こちらもレーダーで確認した……。』

「……。目標への攻撃許可を求む。」

『そんな！今のお前の機体にはミサイルは積んでいない。バルカンだけで戦うつもりか！』

「イーグル2がやられたんだ！敵をとりたい。」

『無理だ。許可できない。一旦帰還しもう一回出撃し……。待て。何だこいつは！？』

管制塔のオペレーターが突如驚いた。

「どうしたんだ？」

『防空識別圏内に大量の航空機が接近。次々に領空内に侵入している！大編隊だ！』

「何！？」

小島はすぐさま対空レーダーのスイッチを入れる。

レーダーには大陸側から接近する、大量の航空機が映っていた。

「こいつは……。」

レーダーに気を取られていたその時、イーグル1の後ろに先ほどの戦闘機がつき機銃を発射した。

急な攻撃だったので避けられず、機銃の弾丸はイーグル1の機体を突き抜け引き裂いた。

「グッ！」

コックピット内のさまざまな計器が爆発し、小島も肩を貫かれた。血がドクドクとあふれる。

「すまん。大塚。お前にもらった命。すぐ駄目になったぜ……。」

煙を上げながら落ちていくイーグル1のF-15J。
煙に巻かれ、意識が朦朧としてきた小島。

さらに肩を貫かれ脱出装置のレバーも引けない。

そんな彼が最後に見た光景。

それはいくつもの爆弾を抱えた、爆撃機の大編隊だった。

次の瞬間。

イーグル1のコックピットを何発もの弾丸が突き抜けた。
コックピットのガラスが血に染まる。

イーグル1は冷たい日本海に墜落し、爆発した。

この5分前。

日本政府は宣戦布告された。

第1話：スクランブル（後書き）

どうもタケトモンです。

とうとう書き始めましたこの小説。

こちらのあとがきコーナーでは詳しい解説などを載せていきたいと思えます。

ご意見・ご感想・ご批判待ってます。

<5月21日（木）>

ご指摘をいただき小説を修正しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9257g/>

再会

2010年10月9日16時24分発行